成果の説明書

(氏名)　吉原　美那子	(学部)　地域政策学部

１　重要事項

（１）研究

〇日英教育学会の開催

9月2日、3日にわたり日英教育学会第33回年次大会を本学で開催し、その実行委員長を務めた。全日程のすべての運営に携わった。

特にここでは、シンポジウムについて取り上げる。今大会シンポジウムのテーマは、「チャリティと教育―今日におけるチャリティの意義を考える―」とし、企画、講演者等の招聘、当日の司会と総括を担当した。シンポジウムの趣旨と概要は、以下の通りである。英国の教育は、遠い過去から現在に至るまで、チャリティを抜きにして語り得ない。チャリティは、初歩的な読み書きを教えるささやかな学校からオックスブリッジの大学カレッジに至るまで関与してきた。こうした現象が英国によって作り出されて、今に至るまで続いている理由と意味を問うことには意義がある。つまり、そもそも、英国のチャリティとはいったい何なのか。そしてその「全体」の中で、教育はどのように捉えられてきたのか。逆に英国の「教育」とはいったい何であって、その全体の中で、諸所に浸潤するチャリティはどのように捉えられてきたのか。本シンポジウムでは、この学際的な問題に歴史学と教育学の双方から接近すべく、金澤周作氏（京都大学大学院）を招聘して歴史学の観点から問題提起していただき、本宮裕示郎氏（滋賀県立大学）に、英国の教養教育におけるチャリティの影響を論じていただいた。

このシンポジウムの趣旨と論点整理を、学会誌である『日英教育フォーラム』に掲載する予定である。

（２）教育

〇学部及び大学院の担当科目

学部：教育政策論、教育学、教職原論、教育実習Ⅰ・Ⅱ、地域づくり論（一部担当）

大学院：教育行財政特論

〇演習

基礎演習及び演習Ⅰでは過疎地域の教育課題、子育て支援、海外の教育戦略などを軸に、ディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイングを取り入れた学生が主体的に考える動く授業を徹底した。加えて、ファシリテーションやヒアリングのスキル向上のためのワークショップを実施した。演習Ⅱでは、卒業論文の指導を行った。

〇前橋市中心市街地再開発のフィールドワーク

前年度に行った前橋市の中心市街地再開発に関わるフィールドワークの総括を行った（協力：前橋市都市計画部市街地整備課様及び産業経済部にぎわい商業課様）。地域の価値向上へ向け民間が主体による仕掛けや取り組みの意義、加えてそこに文教施設をどう活かしていくかを学生とともにまとめた。

〇ゼミ生による長野県立白馬高校での「交流授業」の引率

高大連携として、長野県立白馬高校にて「交流授業」を実施した。ゼミ生が白馬高校１学年の生徒を対象に、「人生とは」をテーマに据えて、危機管理（防災教育）や自己理解、キャリア教育に関わる授業を展開した。加えて、白馬山麓事務組合の協力のもと、近年の少子化に伴う県立高校存廃議論と地域による高校支援の方策の調査を行った。

〇海外フィールドワーク引率（シンガポール）

シンガポールは教育への投資や関心の高い国であり、経済的にも日本と強い結びつき

がある。そこで、シンガポールの教育現場の今、日本とシンガポールとの経済関係、シンガポールの多文化社会を学ぶため、ゼミ生対象の海外フィールドワークを実施した。主な内容は次の通り。
・シンガポール日本人学校クレメンティ校でのヒアリング及び学校内見学
・シンガポールの地域調査
・University of Chichester シンガポール校(ERIC)でのヒアリング及び学生交流
・シンガポール国立大学への施設見学及び学生交流
・現地校 St. Patrick's school で授業及び施設見学、学校管理職へのヒアリング

（３）地域・社会貢献活動
・安中市教育委員会事務点検評価委員
・藤岡市西連携型小中一貫校学校運営協議会委員

（４）学内業務
・地域政策学部教職課程運営委員長
・他、各種委員

２　その他の事項

・日英教育学会運営委員会監査

３　次年度以降の計画・抱負

〇引き続き、地域開発や持続可能な地域づくりと教育施策、地方の少子化に伴う学校の統廃合と新たな地域コミュニティ形成の基盤づくりの研究を進め、かつ学生とともに過疎地の教育コーディネートを学生とともに行っていく。
〇海外の教育政策の動向調査を行う。欧州並びにアジア諸国まで研究の対象を広げる。コロナ前までに継続的に調査を行ってきた自律的な学校運営の研究を継続する。
〇これまでのゼミナールの教育実践を整理し分析を行っていく。